



TITLE:

臺灣と天文学(2)

AUTHOR(S):

山本, 一清

---

CITATION:

山本, 一清. 臺灣と天文学(2). 天界 1935, 15(169): 247-248

ISSUE DATE:

1935-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167021>

RIGHT:

## 臺灣と天文学(2)

山 本 一 清

世界地圖を開いて、地勢や経緯度の上から我が國と歐米諸國とを比較して見ると明らかなる如く、歐洲も北米も、文化の進んで居る地方は多くは我が國よりも緯度が高くて、大抵は我が北海道又は千島以北に位してゐる。ロシアとかスカンデナビヤ諸國には北緯  $60^{\circ}$  に近いあたりにさへ天文臺を持つてゐる。しかし、かうして、緯度が高いといふことは、天文研究上に決して羨しいことではないのであつて、殊に、近代的な天文学の諸問題の攻究のためには、低緯度の土地が本統に望ましいのであつて、寧ろ高緯度の方面を出来るだけ避けた方が好いのである。——其の理由は、至つて、簡單で、即ち、高緯度の土地では週極星が多くて、出沒星が少ないこと、即ち觀察し得る大宇宙が狭いこと、それから尙ほ一つ、高緯度の土地では天の赤道や黄道附近を便利よく見得ないのである。天の赤道や黄道附近といへば特に太陽系に於いて重要な諸現象が起る「檜舞臺」である。故に此のあたりを好條件の下に見得ることを、多くの天文家たちは、どこの國でも、昔しから希望してゐるのである。たゞ、しかし、どうした世情のめぐり合はせか、歐米に於いては、近代の文化國が昔しのギリシャやローマよりも遙かに北方へ移つて了つて、自然に天を觀察するのに都合の悪い形になつて了つてゐる。

我が國に於いても、人々が天文の研究を始める場合に、今までは、とかく西洋の書物を多く讀んだため、つい我が國の實情を顧みないで、「大熊」星座などを週極する星座と心得たり、「射手」星座などを、餘り南に低く過ぎて觀察に適しない星々とアキラメて了つたり、「センタウル」座などは始めから全く見えない無縁のものであるかのやうに觀念する人が多い。實に笑止の至りと言はねばならない。我が國は一體に歐米の文化國よりも緯度が低く、それだけ、南の星々を見るのには實に恵まれてゐる國土である。殊に京阪地方や東京あたりは北緯  $35^{\circ}$ — $36^{\circ}$  に過ぎないから、一年中、黄道上の大小遊星などを見るのに殆んど差支へなく、彗星や流星等も夥しく見えるし、其の他「カ

ノイプス「巨星が見えたり、 $\gamma$ 「センタウル」座のオメガ星團が肉眼で見えたり、又、鹿児島まで行けば $\gamma$ 「アケルナ」星も見えることなど、星すきの西洋人に話すと、實に羨しがらせるのである。

しかし、何と言つても臺灣の土地は、我が國の内地以上に、此の點に於いて好條件の地である。臺灣は、其の北端でさへ北緯  $25^{\circ}$  であり、其の南端は實に北緯  $21^{\circ}$  に近い。故に有名な南十字架の星座などが見えて、つまり全天に散在する21個の「一等星」が一つ残らず視界に入るのであるし、又、近代天文研究上の寶庫である「銀河」も、其の全部を我が臺灣では見ることが出来る！ 只、強いて言へば、南天の名物である大小マゼラン雲のうちの、小雲だけが見えないといふ有様である。しかも、こうした臺灣の土地が、決して絶海の孤島といふわけではなく、平均每週三回は一萬トン級の快速船によつて内地との交通が出來、通信の便も、今は全く最高位の便を與へられてゐるため、あらゆる文化生活に少しも不都合はない状態である。こんな好條件の完備せる土地が、世界の何所にあるかと言ひたい次第である。

今一つ、天文觀測上、土地の調査に大切な點は天氣の模様である。歐米人も、今は、やはり、何とかして低緯度の地に天文臺をほしがつてゐるけれど、誠に残念なことに、アフリカも、南洋も、南米も、多くは、低緯度の土地が雨量や雲量の夥しい土地である。ところが、我が臺灣は此の點に於いても餘り心配はいらない。尤も、基隆や臺北方面は可なり雨がなくて、氣の毒な程であるが、しかし、少しく南下して、臺中まで行けば、天氣模様は一變して、雨は少く、晴れの多い土地となつてゐるし、其れ以南で、嘉義、臺南、高雄等では、やはり、多少の雨は一年の或る時季に降るけれど、決して天文觀測をヒドク妨げるほど夕の悪いものではない。

又、自分の豫期に反して、驚くべき好天氣に恵まれてゐるのは、實に海拔2250米の阿里山である。阿里山では平常、正午過ぎに驟雨がやつて來る以外に殆んど定まつた雨を見ず、實に心地よき晴天續きに恵まれてゐる有様を、人からも聞き、自分も調査確認した次第であつて、之れは是非將來の天文同好者の念頭から去らないやうに希望したい重要事である。

尙、上記した通り、臺中の土地の事を一言する（續）